

## 真の幸せの基準(ルカ 4:16-30)

人は皆それぞれ自分なりの幸せの基準をもって生きています。愛情があれば幸せになるだろうと思う人。また健康こそ幸せなんだ。豊かになれば幸せに暮らせるだろう。社会から、他人から認められること、そこに幸せがあるだろうとさまざまな幸せの基準を持っています。しかし、クリスチャンの私たちは、真面目に問いかけなければいけません。真の幸せの基準はいったい何でしょうか。人々が言っているその幸せの基準が本当の基準になれるものなのでしょうか。今日の聖書の箇所を通してそのことを確認し、神様のメッセージをいただきたいと思えます。

今日の聖書は、イエス様が自分の生まれ故郷ナザレに戻られて、街道に入ってメッセージをされました。そのメッセージの内容は、この聖書に書いてある通りに、私こそそのキリストなんだというお話だったわけです。すると、そのおことばの意味がよく分かっていない人々が、イエス様のことを褒めて驚いていました。しかし、イエス様のことをよく知っていた親戚、家族の方々が、この人はヨセフの子どもではないのか。大工さんの息子ではないのかと言ったわけです。そこでイエス様は、きっとあなたがたは「医者よ、あなたを治せ」と言うでしょう。つまり、あなたが立派なことをいま言っていて、みな驚いています。しかし、私たちはあなたのことを小さいときからよく分かっているのだよ。だから他のところでごまかして、何かをしているかもしれないが、ここではどんなに立派な話をしたとしても、あなたのことを知っているから、それ以上、キリストどうのこうのは言語道断ではないのかという思いで言ったわけです。だから、カペナウムで行われていたその奇跡でも見せてくれないかと言うつもりでしょうと、イエス様は見破ってこのようにおっしゃいました。預言者が自分の故郷で歓迎されることはありません。実際、聖書の証拠を取り上げて、大飢饉に遭ったときに、エリヤはイスラエルにもやもめがたくさんいたのですが、そこには遣わされないで、シドン、つまり異邦人のやもめの方に遣わされていたのではないのか。それから、エリシャのときにも、らい病を患っている人がたくさんイスラエルにもいました。けれども、そこには誰ひとりとしてきよめられることなく、異邦人だったナアマンが癒されたのではないのか。つまり、イエス様が自分の生まれ故郷で歓迎されないことをイスラエルに拡大しておっしゃっているのです。イエス様のことをよく分かっているつもりでも、イエス様を信じていることができない。それがイスラエル全体の問題だったわけです。それを取り上げてイエス様がおっしゃいました。すると、驚いて褒めていた人々がいきなり変わって、怒りを露わにしてイエス様を崖に突き落とそうとしたわけです。でも、まだイエス様は十字架の働きが残っていらっしやったので、堂々とそこを通り抜けて違うところに行かれたというお話なのです。これを通して、私たちは何が本当の幸せなのか、人間の幸せの基準というのはいったい何なのかということキャッチすることができるようになります。

### 1. 人の真の不幸は何かがあると幸せの基準は変わる。

そのために、まず第一に、幸せが何なのかを正しく理解するためには、人の本当の不幸はいったい何なのかということが分かれば、その人の幸せの基準は変わるようになります。

つまり、なぜみな愛情、健康、富、認められること等々を幸せの基準にして生きているのかと言いますと、真の人間の不幸が何かよく分かっていないからなのです。何が人間の本当の不幸なのでしょう。家庭環境が険しいから不幸なのでしょう。障害を抱えているから不幸なのでしょう。病を患っているから不幸なのでしょう。

#### 1) 創世記 1:27、28

聖書には創造主の神様が人間を造られて、他の被造物とは違って人間だけに息を吹き込んで、たましいのある神のかたちに造られました。つまり、神様ご自身がともにおられる唯一の被造物になったわけです。それこそが幸せなのです。だからその幸せな神のかたちである人間に向かって神様は祝福して「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ」というふうに祝福を与えられました。祝福と幸せとは似ているけれどもちよっと違うものなのです。神のかたちで

あることが幸せなのです。幸せだから祝福が与えられるようになります。

## 2) 創世記 3:1-6、16-19

そのように神様がともにおられることで幸せな存在として造られ祝福を受けたその人間が、悪魔サタンに惑わされてその誘惑に負けて、神様に罪を犯し神に背いて神様を離れることになってしまいました。それが人間の不幸なのです。幸せの根源である真の神様がともにおられた者が、罪によって悪魔に惑わされて、神を離れて神を失って神様がいらっしゃらない存在になってしまいました。それこそが不幸なのです。その結果、創世記 3:16-19 を見ますと、このように書いてあります。「女にはこう言われた。「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す」。このときからさまざまな苦しみ、いろいろな問題が生じるようになったわけです。しかも「あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる」。人間関係の問題や家庭のさまざまなトラブルというのがこのときから始まりました。「また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる」。食べて行くために苦労しながら人生を生きる者が変わってしまったわけです。すべてを支配して味わいつつ、そのすべてを通して神様に栄光をささげる特権が与えられていた人間が、食べて行くために苦労しながら、疲れて重荷を背負う者になってしまいました。「大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから」と言われています。結局死んでしまい、土に戻ることになりました。なぜこうなってしまったのでしょうか。幸せの根源である創造主の神様は離れて、神様がいらっしゃらない、神様を知ることも信じることできない者になってしまったからなのです。

## 3) ローマ 3:23、ヨハネ 8:44、エペソ 2:1-3

そのときから人間のことを聖書はこのようになっていきます。「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」。まるで今まで太陽の光が当たっていたのに、それが 100%遮断されて暗闇になっていたような感じなのです。神の栄誉を受けることができなくなった。その結果が何かと言いますと、ヨハネ 8:44「あなたがたは、悪魔である父から出た者」である。悪魔に属する者になって、エペソ 2:1-3、たましいは死んで、自分なりに幸せを求めつつもりに、世の流れに従って空中の権威を持つ悪魔サタンに従うしかない人生を送り、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれる者になってしまいました。存在そのものが不幸になってしまったわけです。

## 4) マタイ 11:28、使徒 8:4-8、ルカ 19:16-32、ヘブル 9:27、I コリント 10:20

だから先ほど確認しましたように、人生そのものがみな幸せになりたいという願いがあるにもかかわらず、努力もして頭を使って頑張るんですが、すべて疲れて重荷を負ってしまうようになり、心も精神的にも病んでしまい、それが神経を通して体を蝕み、病を患うことになり、人生そのものが結局はむなしい者になってしまいます。所有しても努力してみても成功を収めたとしても、結果的にむなしい人生で終わることになります。最終的には「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」。滅びの運命の中を歩き、最終的にはさばかれて地獄に引き落とされることになり、それが自分で終わるのではなくて、誰に教わったのか分かりませんが、自分が死んだ後、死んだ者を拝むように子孫たちに文化を作って、悪霊に仕えるようになり、子孫代々、滅びるように。あなたがたが先祖供養などをしていくことは、先祖ではなくて悪霊に仕えるものなんだと聖書は明確に書いてあります。死んだ者に対してこだわることはすべて悪霊にやられることなのです。死んだ者は終わりなのです。なのに見事に世界中の人々が生きてる間ではなくて、死んだ者にこだわって大げさなイベントや文化を作って、死んだ者にこだわるようにしています。まるで死んだ人に何か良いことをやっているかのような思いで偽りをもって人々をだましていくわけです。それでこの苦しみと不幸は終わることなくずっと続くようになります。

## 5) 宗教、偶像崇拜、シャーマンでよりひどく

多くの人が、これでは答えがないので、宗教を通してこの不幸から抜け出すように頑張るわけです。また、偶像を拝みながら、この不幸からどうにか逃れようともがきをしているのです。あるいはシャーマンや占いなどに頼ったりしますが、最終的にもっとひどくなるだけなのです。これはもう出口がありません

ん。解決にならないものなのです。根本的に神様を離れて不幸な存在になってしまったがゆえに、そこから生じるさまざまなトラブルなのです。しかし、なぜそのような苦しみやトラブルがあるのか、その原因すら分かっていないので、人々は愛情がないからそうなのか、お金がないからそうなのか、健康がないからなのか、あの人があまり良くないからなのかなど、いろいろなことを考えるわけです。不幸の罫から一歩も出ることができなくなります。

#### 6) 創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 7:14

人の真の不幸が何なのかということが分かったとき、人間に希望になること、本当の幸せの道は一本しかありません。神様は約束されました。女の子孫が生まれて蛇の頭、悪魔の頭を踏み砕くこと、それをなさるキリストの他には希望はないわけです。人間の罪を罪のないキリストが身代わりとなって贖いの犠牲になること以外に、人間に希望などはないわけです。幸せなどは存在しません。それでインマヌエル、神が私とともにおられる、その神様と一緒にいることができるいのちであるキリスト、それを約束されました。そのキリストの他には幸せの道、希望などは存在しないということにたどり着くようになります。いつでしょうか。人間の本当の不幸は何なのかということが分かったときにそうなるわけです。

#### 7) イスラエルーキリスト不必要

しかし、イエス様の近くにいた親戚や家族、またそれを広めて考えたときには、神様に選ばれたと。自負していたイスラエルは、人間の本当の不幸が分かっていなかったので、有利な条件をたくさん持っていたにもかかわらず、キリストが必要ではなかったのです。自分なりにさまざまなことを決めて一生懸命頑張っていたのですが、キリストが必要だとは一度も思っていないのです。そのことを今日イエス様は、ご自分が歓迎されないことをもってそのように解き明かしていらっしゃる場面なのです。親戚もイエス様のことはよく分かっているつもりで、イエス様のことがよく分からない。イスラエルはそのキリスト・イエス様のことを重々と教えられたにもかかわらず、知らないからキリストが必要だということが分かっていないのです。それを認めることはないわけです。そういう意味でイスラエルの方に行かないで異邦人の方に行ったのではないのかということをおっしゃったわけです。それこそが不幸なのです。

### 2. イエス様をキリストと見られないことこそ不幸である。

なので、このことを通して私たちはこのように整理することができます。何が人間の不幸なのかと言いますと、今申し上げましたように、本当の不幸が何か分かれば、そのために神様がその不幸を破ってそこから抜け出して、真の幸せになる約束を与えられたにもかかわらず、その必要を拒否するから、

本当の不幸はイエス様をキリストとして見るができないことこそ不幸なのです。

教会に通ってながらも、イエス様、イエス様と言いながらも、イエス様をキリストとして見るができないでいると、それは不幸な信者なのです。信者と言えるかどうかはよく分かりませんが、キリストのほかに希望がないけれども、そのキリストが約束通りに地上に来られて目の前に現れていらっしゃいます。その方がイエス様なのです。しかし、キリストが必要だということを一度も思ったことがないので、目の前にキリストであるイエス様がいらっしゃっていても、イエス様がキリストだということを見るができないし、認めることもできないのです。イスラエルなのに。イエス様のことを一番よく分かっているつもりなのに。彼らこそ不幸なのです。それが不幸なのです。お金がないことが不幸ではありません。病気が不幸ではありません。家庭環境が悪いから、お父さん、お母さんが変な人だから不幸ではありません。自分の能力がないから、ほかの人より格好良くないから、ブスだから、それが不幸ではありません。特にレムナントは小さいときからこのことを明確にして、不幸と幸せの基準を改めないといけません。そうしないと教会に通っていなながらも、ずっと振り回される人生になるしかありません。あなたがたを通して他に勘違いしている人々を助けるために召されたのに、その答えを一度も見ることができないままずっとさまよい続けるようになります。なんと残念なのでしょう。だから今日明確にしましょう。社会で学校で親が友達が漫画でアニメーションや映画や小説がなんと言おうが、それはすべて嘘なのです。人間の本当の不幸は、神様を離れて神を失ったことなのです。それを裏返しますと、悪魔サタンに支配されることなのです。それをすべて打ち破って助かる約束を与えられたのに、そのキリストを認めないことなのです。

キリストが世に来られて、すべてを完了して福音を喜びの知らせを伝えていらっしやるのに、イエス様をキリストと見ることができないのです。なぜできないのでしょうか。何が本当の不幸なのか、一度も聞いたことがないのか、聞いても認めないからです。それでも昔、私を虐待した、それが不幸なんだ。それでも昔、私をいじめ人間は絶対許せない。そのせいで今私はこうなっているのだとずっと思っているのです。キリストを認めることができない。イエス様を信じると言いながらも、キリストとして見えないのです。ある意味、教会に礼拝に通う理由もなくなってしまうのです。何のために教会に行くのでしょうか。バプテスマのヨハネを求めてでしょうか。エリヤを求めて、ごりやくを求めてでしょうか。何が幸せなのか、何が不幸なのかはまだ見極めていないからではないでしょうか。

なので、イエス様をキリストとして見ることができないことこそ不幸であることが間違いなければ、私たちはこのように整理することができます。

#### 1) もし人間的有利が

もし人間的に有利なところが、人間的な長所というものが、イエス様をキリストとして見ることが邪魔するのであれば、それこそが不幸なのです。

#### ①イエス様の家族や親戚

今日の聖書を見ますと、彼らはイエス様の家族なのです。イエス様の親戚なのです。イエス様の故郷の隣人のような人で、イエス様のことをよく分かって、ほかの人よりよく見て分かっているつもり、それが長所かもしれません。でも、それがイエス様のことをキリストと見ることが邪魔するわけです。だからそれは逆に呪いなのです。人間的に有利な条件、人間的な長所、良いところだからこそ、それがそのまま良いことになるわけではありません。クリスチャンはそういうことをよく見極めないといけません。

#### ②選民、律法、奇跡、導き…

イスラエルの場合に、ほかの民族と違って神様に選ばれたのです。なんと幸いなのでしょう。なんと素晴らしい特権なのでしょう。ほかの国にはない神のみことばが与えられ、律法が与えられていました。神様の奇跡を見ていました。神様の奇跡の導きを経験したわけです。でも、誰もキリストを認めようとしません。このすごい有利な条件がかえって彼らを高慢にして、自分がキリストが必要な存在だということに気づかないでいます。

#### ③知識、教養、人柄、バック、富…

人間に良いものがあるならば、偉いところあればいくら偉いのでしょうか。知識がそれぞれ違います。知識が豊富な人もいます。教養のある人もいます。それが悪いという意味ではありません。人柄、品性の良い人間もいます。バックグラウンドがすごい長所を持つてる人も、お金をたくさん持っている豊かな暮らしをしている人も少なくありません。そういうことが悪いことではありません。しかし、もしそういったものが、キリストが必要なんだということをも認めることを邪魔する内容になれば、それは呪いなのです。

#### ④ピリピ 3:8

そういう意味でパウロは、人間的に素晴らしいもの。たくさん持っていたにもかかわらず、このことに気づいたときに、今まで自分が誇りに思って自慢に思っていたそのすべてがキリストの必要性を邪魔していたんだということに気づいて、それらのすべてをちりあくたと告白しているのです。これが何が不幸なのか、何が幸せなのか分かった人の心からの告白なのです。人間の何を自慢することができるのでしょうか。別に人間の長所を悪いと言うつもりはありません。しかし、それ自体が良いか悪いかを決められるものではありません。キリストが基準なのです。人間の幸せと不幸はキリスト・イエスによって分けられるものなので。キリスト・イエスに近づけるものであれば幸いな者であり、それを遠ざけるものすべてが悪なのです。ちりあくたです。クリスチャンが答えられる第一歩、スタートはここからです。私が今までこだわっていたもの、自慢していたもの、誇りに思っていたもの、頼りにしていたもの、そのすべてがちりあくたなのです。なぜならそれは幸せとは根本的に関係ないし、関係ないどころか、それによって勘違いして自分は良い人間だ、幸せな者なんだと勘違いして、キリストの必要性を邪魔していたわけです。そ

れに気づくか気づかないかが答えのスタートになるかどうかを決めることになります。

## 2) もし人間的不利が

だから言葉を変えますと、もし人間的に不利なさまざまな要素や条件などがあっても、もしその不利な条件がイエス様をキリストと見ることができるような道具になる、その材料になるのであれば、それは祝福ではないでしょうか。今日の聖書はそういう話なのです。

### ①異邦人のやもめ

イスラエルの人から見たときには、やもめはもうだめであるし、プラス異邦人のやもめというのは除外、圏外、論外なのです。なのに、そこにのみエリヤが遣わされました。異邦人のやもめだけが遣わされたわけではありません。それを通して人間の本当の不幸が何かを認めて、キリストの必要性を認めて、イエス様をキリストとして信じることができた、その信仰を持っていたわけです。ならば私たちにある不利などのような内容があったとしても、それがなぜ問題なのでしょう。なぜそれにずっと囚われているのでしょうか。なぜずっとそれが気になるのでしょうか。分かっていないからではないのでしょうか。

### ②異邦人のナアマン

ナアマン將軍は將軍なのですが、イスラエルから見たときには異邦人なのです。イスラエルが見たときに、異邦人は獣同然なのです。イスラエルから見たときには不利な条件なのです。なのに謙虚にエリシャから言われた通りに川に入って水をかぶりしました。言われた通りにしたのです。信じたわけです。その自分の人間的な不利な条件、不利な内容、そのままであれば心の傷になるしかなかったことがキリストを必要として、イエス様をキリストとして見るための道になった。材料になったのであればなんと素晴らしいものでしょうか。それが不利、だめなものなのでしょうか。

### ③貧しさ、病、無学、疎外、失敗…

#### ④ I コリント 1:26、II コリント 11:30、12:9-10

私たちがみな金持ちになりたいでしょうけれども、貧しさのゆえに苦しんで、病を患い、学校にもなかなか恵まれないまま無学の人もあるし、みなから疎外される場合もあるし、自分の弱さのゆえに失敗する場合があります。それに私たちは囚われて、それを隠して、反動的にいばる場合もあつたりいろいろありますが、これからはそういうことは必要ありません。それ自体が人を比較するものではありません。それを通してさらにキリストから遠ざかったのか、それがあるからこそイエス様をキリストとして認めるようになったのか、それだけを基準にして自分にあった有利、不利というものを評価しないといけません。イエス様をキリストとして認めて信じるようになることが幸せなのです。それを邪魔することが不幸です。それを基準にして本当に冷静に。真面目に人生を考えていかないといけません。

結論です。なので、メッセージの中にもちよこちよこ申しあげましたけれども、皆さんにある心の傷、不平不満になるしかなかったさまざまな要素、人間的なさまざまな要素によって比較していたその比較意識、そこから生まれる劣等感、落胆等々のすべての不利なものを、絶対解決不可能な問題を見る材料にしましょう。それでキリストが絶対必要だと認めるサインとして受け止めましょう。それ以外の役割はありません。それでイエス様こそそのキリストなんだと告白して、それを通して今まで不利だと思っていた、心の重荷になっていた、暗い影を落とす材料だった、その不利なすべてを感謝に変えましょう。私は自分をほかの人と家庭環境が違う。何でだろうとずっとコンプレックスを持っていました。それがキリストと出会って全部感謝に変わります。どのようなコンプレックス、どのような心の傷、どのようなトラウマをもっているのでしょうか。全部感謝に変えないといけません。ただ心理的にそのようにしましょう、悪いから... という訴えではありません。幸せと不幸の基準が変わらないといけません。そうでないと 30 年教会に通っていても実際にその人の内側は変わらないのです。やぐらが古きままなので、そこから目を出して花を咲かせるようなことがなかなか見られないのです。信仰の成長もその人の内側の変化も、その変化によってその人と関わっているすべて神の国のことが現れる 25 の奇跡なども見ることはできません。皆さんの力でやるものではありません。皆さんが基準を変えて内側から整えられると、神の国のことが皆さんと関わっているすべてのところに現れます。だから証人となるわけです。能力はないか、才能がないか、環

境が険しいかなどは一切関係ありません。神の国のことが現れるわけわけですから。勉強にも授業にも家庭にも自分の肉体にも現れることになりますので、それを信仰と言います。どれほど一生懸命拝んだのかによって、その分報いがあるような宗教ではありません。勘違いしないように。もう既にキリストによって完璧にきよめられて、もうすべて終わりました。ただ古きやぐらがあつて、それを素直に認めて喜ぶことを邪魔するわけです。基準が昔のままなのです。こうなるから良かった。ああなるからダメだと、いつまで経ってもずっとそうになってしまうのです。基準が変わっていないので。もしかしてそれが皆さんが持っている有利なものによってそうになっているのではないのでしょうか。あるいは不利なものによってそうになっているのではないのでしょうか。不利というのが良いという意味ではありません。ある人は不利なこと、より溺れてキリストから離れてしまう人もいます。だから不利なのか有利なのか基準ではなくて、それを通して幸せの唯一の基準であるキリストに近づくのか、イエス様がそのキリストだと認める材料になるのか、道具になるのか、邪魔する道具になるのか、それだけが基準なのです。あー、そうか。私、昔も今でも心の傷によって精神的にやられている、そういう大変な人生の道のりがありましたけれども、神様、本当にそれがあつて良かったです。感謝しますと。皆さんが心から分かつて告白するときに目に見えない暗闇の勢力が砕かれて、今までの皆さんが想像もすることができない神の奇跡が現れるようになります。なぜでしょうか。皆さんを通して同じく病んでいる人々を助けないといけないから。なのに私たちがずっとこもりっぱなしなので。今日の礼拝を通して全部吹っ飛ばして、今まで不平不満の材料、つらみ恨みの材料、何かのせい誰かのせいとしていた内容を、それが全部事実かもしれませんが感謝に変えないといけません。感謝です。その感謝とともに、だから自分は過去がどうであれ、今現在どういう状況であれ、自分は幸せ者なんだという確信を持って、それを宣言しましょう。なぜ幸せなのでしょう。就職もなかなかできないし、大学は落ちてしまうし、いくら勉強しても成績上がらない。なのに幸せなのでしょう。それを合理化しようとするという意味ではありません。にもかかわらず、それは幸せと不幸の基準ではありません。にもかかわらず、皆さんは恵みによってイエス様をキリストとして認めて信じて受け入れているのではないのでしょうか。ならば私は幸いなのです。刑務所の中にも幸いなのです。むちで撃たれても幸いなのです。すべてを奪われていても幸いなのです。ここがスタートなのです。キリストによって与えられたもの、それをサタンによって奪われることがないように。究極的に奪われることなどありません。でも、私たちの考えと心と思ひからは奪われてしまうのです。まるで自分が孤島、無人島にいるかのように、自分は不幸な寂しい人間であるかのようにつつい思うでしょう。それが悪魔のささやきなのです。なぜそう思うのでしょうか。基準が変わっていないからです。キリスト・イエスに集中しましょう。なので条件の有利不利ではなくて、イエス様をキリストと告白するかしないかによって幸せは左右するんだということを肝に銘じましょう。

#### (祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日もキリストの血潮によってきよめられて、神が宿っていらっしゃる尊い幸せな神の子どもが礼拝に集い、神の恵みを求めて、御座の豊かな祝福が現れることを信じて期待する礼拝に導いてくださったことを感謝いたします。どうか神のみことばがひとりひとりにしっかりと運動になり、契約として刻印されるように聖霊様が働いてください。今までにあった幸せ、不幸の基準が完璧に砕かれて、イエス様をキリストとして信じて受け入れるかどうかの幸せの基準だということを改めて刻印することで、自分の人生を改めて編集することができるように聖霊様がひとりひとりの内側でみことばをもって働いてください。それで暗いものが全部取り去られて、心の内側から考えの内側から脳細胞からたましいとその心の中に光り輝くように聖霊様が光のみことばをもって豊かに働いて、病んでいる人々を助けることができる証人として立つことができるように祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。